

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	クオリスキッズ駒込保育園
施設所在地	文京区本駒込5-71-6

1. 活動のテーマ

<テーマ>

生きる力 高尾山キャンプ ～遊びは学び、学びは遊び～

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など) 以前は山中湖でキャンプを実施したがコロナ禍となり、改めてキャンプの必要性や命について話し合い、大人は災害時に子どもの命を守れるかという研修も兼ね、全職員で参加することを優先して電車で行ける高尾山に変更した。高尾山キャンプは、大自然の中で過ごす、家族と離れる、火起こしから食事作りをするなど、非日常な経験であること、仲間や大人と過ごす中で信頼関係を深め、自分の考えや行動を認めてもらう経験を通して思考力や自己肯定感を高めて欲しいと考えている。子どもたちの日々の活動の中から「生きる基礎」(当番活動、食育、体力作り)「人との関わり」(日々の振り返り、自分たちの力で問題解決、協力ゲーム・ルールのある遊び)「学びの芽生え」(キャンプごっこ、高尾山への行き方・天狗の由来調べ、Tシャツ染め、文字の読み書き)など10の姿を意識して取り組んでいる。また保育者は、緊急時に備え、子どもと自分の身を守り行動し、適切な判断をすることもねらいとしている。

2. 活動スケジュール

体力づくり(距離のある公園へ散歩)、キャンプTシャツ染め、兄弟組での活動(ゲーム、振り返り)、事前調べ、カレー作り、キャンプごっこ。生活調査書の提出、健康チェック。 職員全員は5月から順次下見を行い、登山コースを検討し、保護者への説明会を実施。手紙やしおりを作成し配布した。
--

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

染粉(Tシャツ染め)、交通費(京王ライナー・ケーブルカー・バス)、コインロッカー、宿泊手配、郵送費、非常食、カレー作りの材料、紙皿、紙コップ、カメラ、gopro、生活調査書、けんこうカード、賞状、キャンプファイヤーの道具
--

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

山登り時のレクでは、問題をグループで話し合い一つの答えを出して先に進んだり、大きな声で目標を叫び、力を合わせながらミッションに挑戦し、コミュニケーションの力を身につけた。一人ひとりがリーダーとしての役割を持ち、責任を果たしながら参加できた。カレー作りでは火起こしから行い、大人と協力しながら作り、キャンプファイヤーなど、野外ならではの貴重な体験ができた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

登山やレクでは友だちの良い所を自分の言葉で伝えたり、協力したり励まし合う姿があった。保護者から離れて過ごす経験を通し、身の回りのことを保育者と確認したことで自分でい、自立心が芽生えた。職員全員が参加したので、様々な大人との関わりやコミュニケーションを多く持てた。

【保護者との関わりについて】キャンプは行って帰ってくるだけのものではない。帰園の際には閉村式を行い、幼児組が”おかえり”の看板を作り迎えている。そこには年長児の保護者も参加し、頑張った子どもたちを労い、表彰式や乾杯をした。





5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

○子どもたちの体力には驚いた。

登山中とその後宿泊先でのアスレチック遊びなど疲れをみせず走り回る姿は、普段とは違った表情を見ることができた。

○主体的に行動すること

準備段階から子どもが自分たちで決めて納得して取り組んでいたのも、やりたい気持ちを尊重して行うことができ、クオリンピック（運動会）からの繋がりを感じた。

○達成感

子どもたちの最後までやり遂げた達成感。最初から最後まで応援、見守ってくれた保護者の温かい気持ちの達成感、職員全員で参加することでの達成感。これまでの子どもたちの成長を十分に感じる事ができた。

025.11.3~11.4

キャンプ速報!!

登るぞー!!!



天狗発見!



勇者のミッション
頑張ったね



大天狗にも会えた!



山頂ではいチーズ!



お弁当美味しかったねえ



さぁみんなでカレー作りだ!!



いっぱいあかりしたよ!



獅子舞踊ってファイヤー点火!



お風呂の順番はじゃんけん!



おやすみ〜Zzz...



朝だ! おふとん畳んで朝ごはん!



599ミュージアム楽しかった!!



一人ひとりがリーダーの仕事を頑張ろうとする気持ちがとても印象的で、できないところは友だちに手伝ってもらいながら協力する姿もあり、頼もしさを感じました。子どもたちはもちろん、全職員も協力もあり、【ひとりはおみんなのために、みんなはひとりのために】という今回のテーマをよく感じられるキャンプとなりました!!
塩谷・保坂

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都文京区本駒込 5-71-6
園名	クオリスキッズ駒込保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

数字・図形

～形や数に興味を持ち、考える力を育てる～

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

保育園では2歳児以上クラスは英語、3歳児クラス以上は体操とリトミックを導入している。子どもたちの生活の中や遊びの中には「数」や「図形」に興味を持つ子どももおり、考える力を伸ばすために、モザイク遊びや積み木などの既存の物の種類や量を増やし、興味を持つ子どもがすぐに取り組めるようにした。

2. 活動スケジュール

- ◆4月～幼児クラス IQ パズルの映像教材を視聴する。子どもたちの興味関心に合わせて実施し、興味を持たない子どもは自分の好きな遊びが出来るように環境設定をした。
- ◆5月～幼児クラス映像教材を視聴する。
- ◆12月～幼児クラスプリント教材も使い、興味関心のある子ども中心に実施していく。自由に取り組めるように環境設定。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・モザイク積み木 ・立体ブロック
- ・数字のカード
- ・数字・図形プログラム「IQ パズル」

(映像教材、プリント教材、積み木、モザイク積み木)

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・モザイク積み木を使って形や積み木の数を意識しながらパーツを組み合わせて模様を作る。
- ・数字のカードを使ったゲーム
- ・映像教材の視聴。幼児のクラスごとに映像教材を視聴する。映像を見ながら質問に答えたり、考えたりする。
- ・プリント教材は興味をもった子どもが中心となり、取り組んでみる。遊びの中で自由に取り組む時間を持った。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

初めての取り組みだったこともあり、興味を持って臨む姿が多くみられた。「できた」「わかった」という子どもの声だけでなく「なんだろう」「むずかしい」と考えている子どもの声も拾いながら、視聴できるようにした。プリント教材は面白がって取り組む姿が多くみられ、一人一人が自分のやりたいものへ取り組んだことで自信に繋がったようにも思える。机上でのモザイク遊びは見本を見ながら作る子ども、自分で形を考えてオリジナルを作る子ども、友だちと一緒に取り組む子ども、とそれぞれで工夫して取り組んでいた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子どもたちは普段の生活の中には当たり前のように「数」や「形」がある。積み木やブロックを組み合わせることによって、遊びが広がっていく体験をしてきている子どもたち。幼児クラスになると「数」への興味は増していき、生活の中で「数」を意識することも多い。今回のような映像視聴による刺激や、プリントを使う活動は初めてだったが、ほとんどの子どもが楽しみながら取り組む姿が見られた。モザイク遊びやパズルなども年齢に合わせてじっくり取り組むこともできた。保育室で友だちと一緒に視聴することで、視聴後の遊び（プリント、パズル遊びなど）への取り組みがしやすい子どもも見られた。

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都文京区本駒込 5-71-6
園名	クオリスキッズ駒込保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「自然」

～お米ってどうやってできるの？自分たちで育ててみよう！～

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

普段から保育園で食育にも力を入れている。毎日の給食で食べている一番身近な食材である「お米」はどのようにしてできるのか？という子どもたちの疑問から実際に育ててみてお米や自然について探求するため。

2. 活動スケジュール

5月テーマ：「種まき」

4,5歳児クラスが動画で活動の説明を受ける。種まきに向けて土を作る

6月テーマ：「田植え」

テラスにバケツを用意し田植えをする

7月テーマ：「田んぼの生き物」

LIVE 配信で田んぼの様子を見ながら実際に田んぼにいる生き物について学ぶ

8月テーマ：「出穂」

お米になる稲の育ちについて動画と配信で学ぶ。『案山子作り』体験：4,5歳児で案山子を作り、秋田の田んぼに実際に置く

9月テーマ：「登熟」

10月テーマ：「稲刈り」

11月テーマ「食べてみる」収穫したお米を食べてみる

12月テーマ「調べてみよう」自然について興味関心があることを自分で調べる

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・食育教育プログラム
- ・バケツ稲栽培 バケツ、土、肥料
- ・顕微鏡
- ・自然に関する図鑑等
- ・紙芝居

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・バケツ稲を育てる
- ・稲作りの動画を視聴する
- ・案山子を作成する
- ・お米を収穫、食べてみる
- ・自分で考えたことや不思議に思ったことを言葉にして伝える
- ・自分で図鑑を使って調べたり、顕微鏡を使っていろいろなものの姿を見る

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

初めて取り組む活動だったので、担任と子どもたちは一緒に考え、一緒に楽しみながら進めていった。LIVE 配信で田んぼの様子を見ることが出来たことが、興味深かったようで毎回集中して視聴する子どもの姿が多くみられた。保育者も子どもの口から出る言葉を拾いながら、「なぜだろうね?」「どうなるのかな?」と一緒に考えながら取り組んだ。土作りや田植えをしながら土の柔らかさや、水分を与えたときの土の感触の変化に気付く子どももいた。夏の暑い時期は稲の生育状況を心配する子どももいた。配信される田んぼの稲の生育状況とバケツ稲の生育状況の違いにも注目する子どももいた。結果として「おこめ」はわずかしか取れなかったが、そこにたどり着くまでの過程を子どもたちは不思議がったり。おもしろがったりしていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子どもたちの「なぜ？」を拾い上げながら、進めていった取り組み。大人も子供も初めてのことばかりだったが、LIVE 配信や動画にたすけられながら進めていくことが出来た。自然が少ない環境で暮らす子供たちにとって、今回のバケツ稲作りは、土や泥に触れながら食べ物を育てるという面白さや楽しさを感じることが出来た活動だった。大人も初めてだったので、「なぜ？」を子どもと共有しながら進められたこともよかったと思う。動画や事前資料を通しての時間をかけた子どもとのやり取りは不十分だったところが反省点の一つでもある。保育園として「食育」に力を入れているので、今回の取り組みは子どもたちに「食」への関心を高める一つの良い機会になったと思う。